

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103592		
法人名	医療法人 むすびの森		
事業所名	グループホーム 萌		
所在地	熊本県熊本市南区会富町1120番地		
自己評価作成日	H30年1月19日	評価結果市町村報告日	H30年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの理念である「心に寄り添う介護」を目標に、入居者の方々との関わりを大切に支援しています。法人の中には病院や在宅支援事業所があり、定期受診や緊急時に病院との連携が迅速で柔軟に行うことができています。法人以外では地域の支援や協力でボランティア、小学校やこども園との交流、地域のサロンに参加を行っています。又、法人の行事や地域縁側事業で地域の方や家族を交えた交流会に参加をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊本市西部に位置し地域に根差した医療法人が運営するホームは、同法人の医療機関、施設との連携もとれており、家族の安心感・信頼関係が構築されている。管理者の交代があったが、以前からの良い所は継続し、新しい考えも取り入れられ、生活感もあり入居者一人ひとりの思いが大切にされている様子が伺えた。職員同士の日頃の話し合いも定期・随時にあり、改善点は即提案・実施する体制が整えられている。事業所への来訪者が多く、家族はもちろん、入居者の同級生や以前からの知人等の訪問もあり、入居者にとつての自宅そのもので、日常生活の中で「出来ることを出来る範囲で」参加・行うことが自然と行われている。昨年より食事作りスタッフとして近隣住民の参加があったり、以前の職員がボランティアで訪問したりと、事業所に関わる地域・人それぞれから支えられる姿が見える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき毎年年度計画を作成して、毎月学習会を開催して振り返りしながら実践につなげている。	分かりやすい理念は各所に掲示されており、職員・入居者・来訪者にも示されている。理念を取り入れた年度計画は、毎月の会議だけでなく日頃の業務の中でも職員に話し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアの方が毎月訪問されている。地域の行事やサロンに参加して小学生や近隣の住民との交流を行っている。又、縁側事業で地域の方や小学生や子ども園の方たちと交流を深めている。	事業所建物では認知症カフェが開催され、地域の方と共に入居者も参加している。地域ではボランティア活動も盛んで、相互の継続した交流が事業所・入居者と様々な年代の地域住民とを繋ぐ大きな役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月認知症カフェを開催したり、老人会や民生委員や入居相談での見学の際、認知症について説明して正しい理解をして頂けるように努めている。地域のサロンに参加して交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームでの活動や入居者の方々の現況報告、意見交換を行い、より地域の方とともに歩んでいけるように協力を得ている。職員も参加して直接意見を聞いて検討している。	運営推進会議には地域役員の他、住民代表やボランティアグループ、入居者家族・職員も参加し、多様な意見が交わされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上のことなど判断に迷ったら、市の高齢介護福祉課に電話し、相談や報告して届出書を提出している。	行政主催の研修会に参加したり、市担当者に報告・相談等を行い協力関係を築いている。運営推進会議には包括支援センターから参加があり、情報収集や意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会を開いたり、法人の勉強会に参加している。身体拘束が必要な入居者の方の場合は、家族に説明して同意を得たいと思っている。	身体拘束についての勉強会は年間計画にて必ず実施する内容であり、職員会議や日常業務においても職員の理解を深め、身体拘束のないケアへの取り組みを行っている。退院直後等、必要が考えられる場合には、家族への説明・話し合いを充分行うこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間勉強計画に組み入れて職員に浸透するように努めている。また、カンファレンスで取り上げて職員間で防止のために確認しながら入居者の皆さまと向き合っている。		

グループホーム萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は市の関係機関と相談連絡したり、高齢者支援センターささえりあに相談し、必要書類を市の関係機関に提出依頼している。ホーム内の勉強会の時に職員に報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約や改定時は家族に説明して、内容に理解や納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の中での意見交換会や家族の会代表者に運営推進協議会の委員として出席して頂き、意見を述べていただいたり法人からのアンケート調査での意見を参考にしている。	法人による家族アンケートの他、事業所でも年2回の家族会を利用しアンケートを実施しており、結果は運営に反映されている。また家族会や面会時には職員から積極的に声を掛け、意見の出やすい関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理念に基づいて、入居者の方々のニーズに沿えるようにカンファレンスなどで意見交換して提案されたことが反映できるように努めている。	職員会議、カンファレンス等には基本的に全職員が参加し、意見を出し合える機会が設けられている。提案事項は対策を検討し、改善に向け業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や現場での職員の意見を参考に職場環境や条件の整備に努めている。(研修の機会、資格取得の機会、法人内からの応援依頼、賃金見直し、施設の整備・園芸など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実務者研修、管理者研修や外部の研修、資格取得後の自己研鑽の大切さを話されている。法人全体の勉強会を通して、コミュニケーション力や接遇について研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡協議会などの研修に参加している。知り合った同業者間で空き情報を連絡しあい、待機者の家族に連絡、紹介をしている。		

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族や近親者の見学をしていただき、本人や家族から傾聴して、アセスメントし入居後安心して生活してもらえる支援作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族や近親者の見学をしていただき、生活歴や周囲との関わり、病歴などや入居することでの要望などを聞いて、入居後も家族と職員との協力関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活を基本とした支援作りを実施している。地域の人との関係を継続できるようにサロンに参加している。又買い物や花見などの外出、近所への散歩、受診支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割意識を持たれている方がいらっしゃるため、その方の好みやできることやできそうなことを把握し、一緒に行えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人にとって家族が大切であることを理解し電話で連絡したり、来訪時に近況報告したり相談を行っている。月に1回は家族あてにお便りを郵送したり、外出などの行事には家族の参加協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたい人に会えるような支援を目標にしており、家族や近親者や友人の来訪や外出、外泊して過ごせるように調整したり、サロンに出かけられるように支援している。	地域のサロンや縁側事業開催での参加者とのふれあい、また運営推進会議参加者の立ち寄り、同級生の面会等、来訪者が多く、地域住民との関わりが継続している。また入居者と家族の関係継続にも力を入れており、家族との外出・外泊もよく見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないように職員が気配りしながら柔軟に対応している。レクリエーションや手芸、畑で作物作りなどを通して一緒に楽しまれ、作り上げることができるように支援している。		

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院の為に退所された方には、入院先に情報を提供して必要時には相談や支援したりして関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が意思を言葉で話せない人の本人の思いや意向はどのようなものかを知り支援できるように努力している。	日頃から職員は入居者への寄り添いが見られ、事業所全体で入居者の意向の把握に努めている。入居者の様子に気づき、職員からさりげなく声を掛けたり等のケアが実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されて数年たれた人で、入居時の環境が十分把握されていない方もおられ、情報の更新に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状態や暮らしを収集しながら、一日の過ごし方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の基本は介護する職員であるために担当者を決めて、中心となり、家族との相談を行い情報を共有しながら計画を作成している。	担当者を中心としているが、アセスメント、モニタリングでは全職員の意見を取り入れている。担当者は家族の意向も確認しながら、意見をまとめ、管理者と共に介護計画作成に携わっている。急な容態変化時には見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日管理日誌に予定を記入してその日の様子を記入している。又個別記録して課題を検討したり・共有しながら統一した支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族のニーズに応じて業務時間をずらしたり、同一法人のリハビリ通院や地域行事など柔軟な支援が行えるように努めている。		

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中のサロンに参加したり、地元のボランティアの方々との訪問交流やこども園との交流、地域縁側事業に参加したり、職員と買い物に出かけられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞き、受診先は決め、法人内が多く定期受診の支援。法人以外の受診は家族の協力で受診支援。専門医など必要時は主治医や家族と相談し、情報提供や同行して相談や連携している。歯科は定期的に往診となっている。	入居時にかかりつけ医を確認しているが、現状はほぼ全員が法人内医療機関である。法人以外の受診は基本的に家族協力による通院で、必要に応じ職員も同行する。法人内医療機関は定期受診も含め職員が通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の中で状態に変化があれば、看護師に連絡相談し、適切な受診ができるように努めている。昼夜とも法人内の連絡体制が取れているために、医師や看護師に連絡し指示や応援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調に変化があれば主治医に連絡相談を行い、入院の必要時は入院先に同行して、入居中の情報を書面で提供している。入院先に訪問して病状経過を聞き、退院時の留意点やサマリーの提供を受けたりと連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や重度化しつつある時には、その都度家族に相談し今後の方針を共有している。状態が進行すると最初の家族の考えと変化しても対応できるように関係者で十分検討し、最善を尽くせるようにチームで取り組んでいる。	入居時及び状況の変化等により都度家族の意向を確認しており、希望があれば看取りまで支援を行う。かかりつけ医が法人内医療機関であることで支援体制も整っており、家族と医師との話し合いを持ちながら支援を行っている。終末期には家族も事業所に宿泊することもあり、家族・親戚の面会等にも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や痰の吸引のやり方など事故発生時に備えて勉強会で学習している。法人の協力を得て支援体制を構築して職員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の防火訓練を実施している。地元消防団に協力を得ている。又消防団の団長の方に運営推進委員として協力体制を築いている。	一昨年の熊本地震で隣接する病院に避難した経験から、法人全体で、災害に対する対策を練り直した。運営推進会議の構成員に消防団も依頼しており、地域との協力体制を築いている。各居室には災害に備え、「救助済」を示す札が準備されている。	地域との関係が深く、連携がとれている様子が窺えました。一方、熊本地震の際は、他所からの協力が得られず、事業所単体で避難を強いられた状況もありましたので、様々な状況を想定した訓練も期待します。

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の方が自分らしさを持って生活できることを目標に支援している。入浴、排泄は特に安全面とプライバシーの確保に努め支援している。	入浴・排泄の際には特に気を遣い、安全面を確保しながらも出来るだけ職員一人での介助に努めている。トイレ利用時の対応の仕方等、気を付ける点を徹底し、職員は共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを尊重しながら日常生活を支援している。リハビリやレクなどの活動もその日の体調など本人の意向を聞き支援につなげている。入浴や排泄なども声かけて同意を得るようにして支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で一日の過ごし方の希望を伝えられる人が少ないが、その中でも出来るだけその人のペースに沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣される時はできるだけ好みの服を選ぶことができるように支援している。二か月に一回は散髪できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好み(家庭的なもの)をメニューに取り入れながら献立を作成している。買い物も一緒に行ったり、片付けや簡単な準備を一緒に行っている。	昨年より近隣から食事作りスタッフが参加しており、家庭的な手作りの食事が継続して提供されている。スタッフが入居者と触れ合い関わりを持つことで、好みも把握でき、メニューに活かされている。	食事時には、入居者・職員皆で食卓を囲み、食事を共に楽しむ様子が窺えました。会話は明日の献立や下ごしらえ等、話題に富み、日頃の入居者の食事への関わりが感じられました。是非継続してください。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量は記録し状況把握に努めている。水分はミルク、お茶、ポカリなど組み合わせている。嚥下力の低下している人は栄養補助ドリンクや食事の形態やトロミ剤など栄養が取れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科診療を受けて歯の治療や義歯調整や口腔内予防に努めている。毎食後歯磨き、うがい、義歯洗浄などの支援をしている。		

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個別排泄習慣やパターンを把握している。表情や言葉や動きでトイレ誘導や介助を行い、おむつ内の排泄を減らすように努めている。	排泄チェック表や入居者の習慣の把握により声掛け・誘導を行い、現在、昼間は全員トイレを利用し、自立に向けての支援を行っている。時には失禁もあるが、安易なオムツへの移行は行っていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の生活の工夫や水分補給や運動に配慮している。食事でも食物繊維の多い食品やヨーグルトなどを摂取できるようにしている。頑固な便秘の方は主治医に相談し、緩下剤の処方を受けて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表で個々の入浴状況はチェックしている。本人の希望や気分に合わせてなるべく希望に沿うようにしている。	基本的に1日おき週3回以上での入浴としているが、入居者の希望による。職員の介助も以前より多く必要になってきているが、安全を確保しながら出来るだけ一方的な介助にならない様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて、日中も臥床時間を設けている。夜間の睡眠を妨げないように健康状態や気分の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当番の職員が責任をもって、誤薬予防に注意しながら確実に服薬支援を行っている。受診ノートで薬の変更や処方内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	性格や状態に応じて洗濯物干しや洗濯物畳み、食事の準備、居室の洗濯物整理などをされている。レクリエーションや季節に応じて外出したり、食事に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物と一緒に外出したり、サロンに参加されたり、地域の行事に参加し、地域の人や家族の人と交流ができるように支援している。	地域サロンや縁側事業への参加や、隣接病院の売店まで買い物、また事業所で計画された季節行事やドライブ等、日常的な外出を支援している。家族の協力も大きく、外出や外泊も見られる。	近年入居者の高齢化も進み、外出等にも意欲の低下が見られる様ですが、計画だけでない、日常的な外出への継続した支援に期待しています。

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者は金銭管理が行えない。家族から依頼された人の場合は管理者が預かり管理している。外出時の昼食代や法人の祭りなど必要なものは希望を聞いて購入支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、家族へ電話をかけた話せるようにしている。年賀状や誕生日カードなど送られてきているために書く練習を行う支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の出入り口や居室内には希望次第で名前や似顔絵など掲示し安心されるように配慮している。フロアには季節の花を折り紙で作って飾ったり、行事の写真を飾ったりして季節感を出している。居室とフロアの掃除を行い、清潔な環境と気持ち良く過ごせるように工夫している。	共用空間には思い思いにゆったりと過ごすスペースが所々に設けられ、語らいあう入居者の姿がある。入居者それぞれの個性により、都度席にも配慮されることで穏やかな雰囲気 が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の気分や状態で、入居者が好きな場所で過ごせるようにソファの位置を変えたり、食事の時に座られる位置を変えたりと工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの筆筒や写真など持ち込まれている。又、入居後も家族が来訪時、写真を撮ったり、ご自分の作品を飾ったりして和むことのできるように工夫している。	家族の協力により、以前から使用されていた生活用品や家具が持ち込まれている。面会時には家族もゆっくりと部屋で過ごすことができ、また室内はそれぞれが心地良く過ごすことができる様、配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などの場所がわかりやすいようにトイレに赤ちょうちんや名前を明示してできるだけ自分で場所を確認し、安全に行動できるように工夫している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

グループホーム 萌

作成日 平成 30 年 3 月 12 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	防火訓練は年に2回実施している。災害対策について勉強会は毎年行っているが、熊本地震の教訓から避難対策を講じる必要がある。	地震や災害に必要なことを学び、避難訓練を通して迅速に行動することができる。	①年に1回は防災対策の勉強会を行う。 ②年に1回は地震避難訓練を行う。 ③災害時必要備品の点検する。	1 2 か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。